



J613-M0220-02 Rev.G 080131



最初にお読みください

CentreCOM® GS908M/916M/924Mリリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924M をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.4.0

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.0 (J613-M0220-03 Rev.D)」をご覧ください。

2.1 RADIUS サーバーによるユーザー認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

本製品へのログイン時に、システムに保存されているユーザー名・パスワードを使用せず、RADIUS サーバーに認証を要求することが可能になりました。

これにより、SHOW AUTHENTICATION コマンドの実行で表示される「Auth Req」と「Auth Resp」のカウンターもサポートになります。

2.2 RADIUS サーバーとの通信に関するパラメーター設定コマンド追加

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

SET RADIUS コマンドが追加され、RADIUS サーバーとの通信に関するパラメーター（応答待ち時間、再送回数など）が設定できるようになりました。

DEAD-ACTION パラメーターでは、RADIUS サーバーからの応答がないときでも、通信を許可する設定が可能です。

2.3 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

- 802.1X 認証方式の拡張：
802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP に対応しました（EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-PEAP を使用する Supplicant を認証できるようになりました）。
- Multiple Authentication：
Authenticator ポートで、該当ポート配下に接続された個々の Supplicant を識別し、個別に認証を行う Multiple Authentication（Multi-Supplicant モード）に対応しました。
SET PORTAUTH PORT コマンドの MODE パラメーターで指定します。

- ゲスト VLAN :
Single Authentication (Single-Supplicant モード) 時に、Authenticator ポートでゲスト VLAN を指定できるようになりました。SET PORTAUTH PORT コマンドの GUESTVLAN パラメーターで指定します。
- ダイナミック VLAN :
RADIUS サーバーから受け取った認証情報に基づいてポートの所属 VLAN を変更するダイナミック VLAN に対応しました。SET PORTAUTH PORT コマンドの VLANASSIGNMENT パラメーターで有効 / 無効を選択します。

2.4 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- 「機器監視」 - 「システム情報」の自動更新の更新間隔（分）を設定できるようになりました。
- 「機器監視」の「システム情報」に「詳細情報保存」ボタン、「機器監視」の「ログ」に「ログ保存」ボタンが追加され、各情報をファイルに保存できるようになりました。
- Web GUI で使用時のブラウザとして、Microsoft Internet Explorer 7.0 (Windows 版) に対応しました。
なお、ファームウェアをバージョン 1.3.2 以前へダウングレードした場合、Microsoft Internet Explorer 7.0 では Web GUI を利用したファイルのアップロード・ダウンロードおよび、ファームウェアのダウンロードができません。ファームウェアバージョン 1.3.2 以前のファームウェアでは、Web GUI を利用したファイルのアップロード・ダウンロードおよび、ファームウェアのダウンロードは Microsoft Internet Explorer 6.0 をお使いください。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。各機能の詳細については、「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.0 (J613-M0220-03 Rev.D)」をご覧ください。

3.1 FAULT LED の点滅条件

 **「取扱説明書」 24 ページ**

FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- 1 回点滅 :
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)
ファンの異常発生時
- 3 回点滅 :
電圧の異常発生時
- 6 回点滅 :
内部温度の異常発生時

3.2 ポートランキングとスパニングツリープロトコルの併用

ポートランキングとスパニングツリープロトコルの併用が可能になりました。

3.3 ポートランキングと IGMP Snooping の併用

ポートランキングと IGMP Snooping の併用が可能になりました。

3.4 RADIUS サーバーの登録数拡張

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

RADIUS サーバーを 2 台まで登録できるようになりました。ADD RADIUSSERVER SERVER コマンドの ORDER パラメーターで優先順位が設定できます。

3.5 SET PORTAUTH PORT コマンドの REAUTHPERIOD パラメーター

 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

Supplicant の再認証間隔を指定する SET PORTAUTH PORT コマンドの REAUTHPERIOD パラメーターに設定可能な最大値が 65535（秒）から 86400（秒）に拡張されました。

3.6 スパニングツリーの設定変更

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

スパニングツリーの設定変更時には再起動が必要でしたが、再起動をせずに設定がただちに反映されるようになりました。

3.7 Web GUI の「再表示」ボタン

 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

以下の機能において、GUI で設定変更を行った後、コマンドラインで設定変更を行っても GUI の「再表示」ボタンを押すと、コマンドラインでの設定変更が取り消され、GUI での設定値が反映されていましたが、「再表示」ボタンでコマンドラインの設定変更が取り消されないよう仕様変更されました。

- IGMP Snooping
- Radius サーバー
- 802.1X
- 統計カウンター

3.8 Web GUI でのファイルダウンロード

 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

Web GUI からのファームウェアや設定ファイルのダウンロードを、FTP ではなく HTTP を利用するように仕様変更されました。

3.9 本製品宛て通信

ブロードキャスト、マルチキャスト（予約済マルチキャストを除く）、未学習のユニキャストパケット受信時における、本製品宛ての通信に対する処理効率を上げました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 DELETE FILE コマンドで、ファイル名にワイルドカード (*) を使用する場合、ワイルドカード以外の文字列の大文字・小文字が区別されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.2 フラッシュメモリーに 148KByte 以上のファイルが存在している状態で、Web GUI 上で設定内容の保存中に、CLI 上で RESTART コマンドを実行すると、再起動後にフラッシュメモリー内のファイルが消去されていましたが、これを修正しました。
- 4.3 コマンド入力途中で ? キーによるヘルプを表示した後、Backspace キーや Delete キーでコマンドを編集し実行すると、エラーが表示されること、またはコマンドが正しく実行されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 本製品に Telnet でログインし、TFTP によるファームウェアのダウンロードを実行した場合、ダウンロード処理中に Telnet クライアントのウィンドウを閉じると、まれに本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 TFTP によるファームウェアのダウンロード時、ファイル転送後約 10 秒間は、本製品宛での通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.6 本製品に FTP 接続をして、存在しないファイルを指定して Get を実行すると、FTP セッションが強制的に切断されていましたが、エラーメッセージが表示されるよう修正しました。
- 4.7 ログ機能において、「IGMP Snooping initialization failed」のメッセージが表示されるよう修正しました。
- 4.8 SET CONFIG コマンドに NONE を指定して本製品を起動直後、ACTIVATE SCRIPT コマンドで、SNMP 設定を含む設定スクリプトを実行すると、本製品が再起動する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.9 SNMP マネージャーから、スパニングツリーポートの有効/無効を設定できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.10 MIB-II の以下のオブジェクトが正しくカウントアップされるよう修正しました。
snmp グループ : snmpInBadCommunityNames, snmpInBadCommunityUses, snmpOutNoSuchNames, snmpOutBadValues, snmpOutGenErrs
- 4.11 SHOW SNMP コマンドの実行で表示される以下の項目が正しくカウントアップされるよう修正しました。
inBadCommunityNames, inBadCommunityUses, outNoSuchNames, outBadValues, outGenErrs

- 4.12 (GS916M/GS924M のみ) コンポポートの 1000BASE-T ポートが 100Mbps でリンクしている場合、MIB-II の ifSpeed および ifHighSpeed が正しい値を返しませんでしたが、これを修正しました。
- 4.13 SNMP マネージャーからブリッジ MIB の FDB 情報 (ダイナミックエントリーのエントリー数) を正しく取得できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.14 SNMP マネージャーからスパニングツリーパラメーターを複数同時に設定すると、設定が反映されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.15 ブリッジ MIB の dot1dStpRootPort、dot1dStpHoldTime が正しい値を返すよう修正しました。
- 4.16 スパニングツリーが無効の場合、ブリッジ MIB の dot1dSTP 配下のオブジェクトを参照することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 SNMP マネージャーから、dot1dTpFdbPort の値を Get Request (dot1dTpFdbPort.MAC アドレス) で取得できない場合がありますでしたが、これを修正しました。また、端末を別ポートに移動後、Get Request (dot1dTpFdbPort.MAC アドレス) を実行すると、移動前のポート情報が返される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.18 リンクアップしているポートに対して DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行しても、ifOperStatus が Up のままでしたが、Down になるよう修正しました。
- 4.19 SNMP マネージャーから、ifMIBObjects(1)、ifXTable(1)、ifXEntry(1)、ifHighSpeed(15) の MIB オブジェクトに対して Get を実行すると、本製品がリポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.20 SNMP マネージャーにて、SNMPv2 の GetBulk リクエストを実行する際、non-repeaters パラメーターを 0 以外の値に設定すると、本製品がリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.21 Telnet ログイン時、SHOW LOG コマンドを実行すると、「Ctrl」+「C」を押しても中断できない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.22 Telnet による複数接続時、一方のセッションで RESTART コマンド実行直後に、もう一方のセッションで SET CONFIG コマンドを実行すると、コマンドが受け付けられていましたが、受け付けられないように修正しました。
- 4.23 SET HTTP LISTENPORT コマンドで、HTTP プロトコルのポート番号を変更した後、本製品宛での通信に負荷をかけた状態で本製品を起動すると、変更前のポートがオープンしている場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.24 DISABLE SWITCH PORT コマンドでポートを無効に設定したときに、該当ポートの FDB が正しくクリアされない場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.25 ENABLE SWITCH PORT コマンドでポートを有効に設定したときに、FDB が（全ポート）クリアされていましたが、これを修正しました。
- 4.26 VLAN にマルチキャストアドレスをスタティック登録し、ポートセキュリティーの設定を AUTOMATIC から SECURED に変更した場合、該当 VLAN からポートを削除しても、スタティックエントリーが削除されませんでした。これを修正しました。
- 4.27 マルチプル VLAN と IGMP Snooping 併用時、SHOW SWITCH FDB コマンドで表示されるマルチキャストアドレスの VLAN 名には、「--」が表示されるよう修正しました。VLAN 名は、SHOW IGMP SNOOPING コマンドで確認してください。
- 4.28 ADD SWITCH FILTER コマンドで、トランクポートを指定してスタティックエントリーを作成すると、スイッチフィルターが正しく動作しませんでした。これを修正しました。
- 4.29 通信中のポートのケーブルを抜くと、まれに FDB がクリアされない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.30 本製品のコマンドラインから他の機器宛てに ICMP Echo メッセージ（Ping パケット）を送信すると Reply 番号がずれることがありましたが、これを修正しました。
- 4.31 コンボポートでトランクグループを作成し、Web GUI からポートと通信速度の変更をすると「通信速度が正しくありません。」というメッセージでエラーになっていましたが、設定可能なように修正しました。
- 4.32 以下の条件が重なった場合、1000Mbps ポートの通信がワイヤーレートで行われませんでした。スイッチングバッファのしきい値を調整することによって、これを修正しました。
- ・ IP パラメーターが設定されている
 - ・ 10MHALF/10MFULL/100MHALF/100MFULL のうち 2 種類の異なる通信モードのポートが存在している
- 4.33 コンボポートがリンクしている状態で、コンボポートの設定を FIBER から COPPER、またはその逆に変更すると、ポートがリンクアップしなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.34 IGMP Snooping 有効時、メンバーが登録されているポートに対して、ポートセキュリティー（SECURED）の設定をしても、エラーで設定が有効にならない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.35 EAP パケットは、常にタグなしで送信するように仕様変更されました。また、プライオリティータグ付きの EAP パケットを受信した場合は、優先制御がされるように修正しました。
- 4.36 EAP 透過機能有効時にタグ付きの EAP パケット、および IGMP Snooping 有効時にタグ付きの DVMRP パケットが、正常な形（サイズ）で転送されない場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.37 タグ VLAN のみに所属しているポートではタグなし BPDU パケットを受信することができずでしたが、これを修正しました。
- 4.38 イングレスフィルタリングを有効にした場合でも GUI から VLAN モードをマルチプル VLAN モードに変更できていましたが、変更できないように修正しました。
- 4.39 Group-specific Membership Query メッセージが同一 VLAN 内にフラッディングされていましたが、メンバーの存在するポートにだけ転送されるよう修正しました。
- 4.40 IGMP Snooping 有効時、複数の IGMP Query を同一ポートで受信した場合、SHOW IGMP Snooping コマンドの Router Port の Address に、最初に受信した Querier の MAC アドレスしか表示されませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.41 ADD SWITCH FILTER コマンドでスタティック登録されたマルチキャストアドレスと同一アドレスが IGMP Snooping で登録された場合、IGMP Snooping のタイムアウトによって該当アドレスが削除されると、FDB から該当アドレスが削除されていましたが、削除されないように修正しました。
- 4.42 IGMP Snooping 有効時、不正な DVMRP パケットを受信すると、同一パケットが2 個分転送されていましたが、これを修正しました。
- 4.43 Authenticator ポートにスタティックエントリを登録する、またはスタティックエントリが登録されているポートを Authenticator ポートにしてもエラーにはなりませんが、エラーになるよう修正しました。
- 4.44 Authenticator ポートまたは Supplicant ポートを、トランクグループに所属させる設定をしてもエラーにはなりませんが、エラーになるよう修正しました。
- 4.45 RADIUS Access-Request パケットに含まれる Calling-Station-Id/Called-Station-Id の MAC アドレスが、「-」を用いて表されるよう修正しました。
- 4.46 802.1X 認証で、Authenticator ポートの設定→RADIUS サーバーの追加を行った後、ENABLE PORTAUTH コマンドを実行すると、不正な RADIUS パケットが送出され、認証に失敗していましたが、これを修正しました。
- 4.47 スパニングツリープロトコル使用時、異なる通信速度（1000Mbps と 100Mbps など）の経路が混在した構成で、ブロードキャストなどのフラッディングパケットによる負荷がかかると、トポロジーチェンジが頻繁に発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.48 スパニングツリープロトコル使用時、多数の経路が存在する構成で運用されるとループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.49 本製品起動時に、スパニングツリー有効ポートで受信したパケットが転送されていましたが、これを修正しました。
- 4.50 スパニングツリー有効ポートをリンクダウンさせると、他のスパニングツリー有効ポートの BPDU パケットを送信する間隔が長くなっていましたが、これを修正しました。

- 4.51 Web GUI の IP 設定で「インターフェース (VLAN)」の欄になにも入力せず「設定」ボタンを押すと IP アドレスが 802.1Q タグ VLAN モードのときは default VLAN、マルチプル VLAN モードのときは UV1 に割り当てられるため、その他のインターフェースからログインしている場合、Web GUI が使用できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.52 Web GUI の「スイッチ設定」-「ポート一覧」の「ミラー」の項目に、ミラーポートに設定されたポートが「None」で表示されていましたが、「Mirror」と表示されるよう修正しました。
- 4.53 Web GUI のポート設定で、トランクグループに設定されている通信速度と異なる速度をトランクポートに設定すると、ポート設定の通信速度でリンクしていましたが、トランクグループの通信速度でリンクするよう修正しました。
- 4.54 Web GUI で、ポートステータス表示画面を開いたとき、指定ポートの所属 VLAN が大量にあると、本製品がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.55 Web GUI で、ポート一覧表示画面を開いたとき、ポートの所属 VLAN に VLAN 名が 20 文字、VID が 4 桁のものがあると、本製品がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.56 Web GUI の RADIUS サーバー設定において、共有パスワード (Secret) に最大設定可能文字数 (= 24) より多い文字数が設定できていましたが、25 文字以上の入力でエラーになるよう修正しました。
- 4.57 Web GUI の FDB 表示で、表示条件でトランクグループ名を指定した場合、条件に該当しない IGMP Snooping で登録されたマルチキャストアドレスが表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.58 フラッシュメモリーへの書き込み中に、Web GUI から設定ファイルの変更を行う操作が可能でしたが、実行できないよう修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.4.0 には、以下の制限事項があります。

5.1 フラッシュメモリーの空き容量

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

5.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- ipAdEntIfIndex (1.3.6.1.2.1.4.20.1.2) および ipNetToMediaIfIndex (1.3.6.1.2.1.4.22.1.1) に、IfIndex (1.3.6.1.2.1.2.2.1.1) にない IfIndex が設定されています。
- SNMP マネージャーによって、FAN、TEMPERATURE、VOLTAGE、LOGIN トラップが正しく識別されない場合があります。

- オブジェクト ID 「ipNetToMediaNetAddress(1.3.6.1.2.1.4.22.1.3)」に、IP アドレスが逆の順序（192.168.1.1 の場合、1.1.168.192）でセットされています。SNMP マネージャーで参照した場合は、正しい順序で表示されます。

5.3 RADIUS サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドのDEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。SET RADIUS コマンドのDEADTIME パラメーターが 0（ゼロ=デフォルト）の場合、本現象は発生しません。

5.4 PAUSE フレーム受信時の統計カウンター

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

PAUSE フレーム受信時に、SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドの Discards と UnknownProtos が不正にカウントアップされます。

5.5 ポートミラーリング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

ポートミラーリングの設定をする際は、ミラーポートとソースポートを設定した後に、ENABLE SWITCH MIRROR コマンドでポートミラーリングを有効にして、設定を保存するようにしてください。

ポートミラーリングを有効にした後で、ソースポートの設定を変更すると、ポートミラーリング有効の設定が設定ファイルから削除されます（ただし、再起動するまではミラーリングは有効の状態で作動します）。

5.6 ポート認証

 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI（Multi-Supplicant モード）を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません（Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません）。
- タグ付きポート（タグ付きとしてのみ VLAN に所属しているポート）を Authenticator ポートに設定した場合、認証に成功しても通信ができません。ただし、該当ポートがタグ付き / タグなしとして 2 つの VLAN に所属している場合は、タグなしで所属している VLAN で通信が可能です。
- ポート認証有効時、Authenticator ポートとしてリンクしているポートに対して、SET PORTAUTH PORT コマンドで TYPE パラメーターに NONE を指定して実行後、さらに同コマンドで TYPE パラメーターに AUTHENTICATOR を指定して実行すると、該当ポートで再認証がされません。
この場合、以下のいずれかを実施することで復旧し、再認証するようになります。
 - ・ ポート認証を一度 Disable にし、再度 Enable に設定する
 - ・ Authenticator ポートを一度リンクダウンさせ、再度リンクアップさせる
 - ・ Authenticator ポートを一度ポート Disable にし、再度 Enable に設定する
 - ・ Authenticator ポートに対して RESET SWITCH PORT コマンドを実行する

5.7 スパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリー」

スパニングツリーで Point to Point が無効の場合、上位のブリッジから proposal フラグがセットされた BPDU を受信しても、agreement フラグがセットされた BPDU が返されません。

5.8 Web GUI

 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

- Web GUI の「セキュリティ設定」 - 「ポート認証」の「ポート設定」で、Authenticator ポートのモード (Mode) に Multi を指定していても、Piggy back モード (PiggyBack) で Enabled の選択が可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-SupPLICANT モードのポートでは、Piggy back モードは有効になりません)。
- 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.0 (J613-M0220-03 Rev.D)」の補足事項です。

6.1 サポートする MIB について

 「取扱説明書」 108 ページ

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにともない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

6.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に 5 個以上の SNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- (GS908M のみ) ファームウェアバージョン 1.3.2 以前で作成された設定ファイルに enable snmp trap=fan の設定が含まれる場合、バージョン 1.4.0 以降では、コマンドがエラーとなり、設定が反映されません。
再度、ENABLE SNMP TRAP コマンドを実行し、設定を保存しなおしてください。

6.3 IP

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

6.4 スイッチング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- スイッチポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。

6.5 ポートミラーリング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

6.6 パケットストームプロテクション

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

6.7 IGMP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」

- Leave メッセージを受信した後も Group Address、VLAN 名は SET IGMP Snooping TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛での Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。
- IGMP Snooping でグループが登録される前に、マルチキャストデータを高レートで受信し続けると、グループが登録されていない状態では IGMP パケットが転送されない場合があります。

6.8 ポート認証

 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

6.9 スパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリー」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

6.10 TELNET コマンド

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

本製品では、コンソールポート（非同期シリアルポート）からログインしたときのみ TELNET コマンドが実行できます。Telnet 接続している機器から、さらに TELNET コマンドを実行して別の機器に接続することはできませんので、ご注意ください。

7 未サポートコマンド

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT

SET SYSTEM LANG

ADD/SET/DELETE PORTAUTH PORT SUPPLICANTMAC

8 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.0 (J613-M0220-03 Rev.D)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0220-03 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>